

テーマ「投票することの大切さ」

久留米商業高等学校 田中 創真

私の住むうきは市は一八歳以上の国民に選挙権が与えられた後、日本で最初に市長選が行われた市です。選挙が行われた時、市全体の有権者およそ二万五千人のうち一八、一九歳の有権者は約六百人でした。

私は、祖父が以前、市の選挙管理委員長だったこともあり、選挙にはとても関心がありました。祖父からも、投票することの大切さを聞かされていましたし、小さいころから投票には必ず行こうと思っていました。投票に行く前、立候補者の公約に目を通し、誰に投票するか事前に決めていました。公約や町中に貼ってあるポスターなど、今までは全く意識していませんでしたが、自分がいざ有権者になってみると、立候補者の選挙に対する熱意を感じることができました。選挙ポスターは実際に誰が投票しようか悩んでいた自分にとって、とても良い判断材料になりました。投票所では選挙管理委員の方が指示してくださり、戸惑うことなく投票し終えることができました。投票用紙を投票箱に入れた瞬間、自分が市長を決める一票を投じたんだという責任と、緊張のようなものを感じました。

選挙が行われた事で日本中から注目されたうきは市ですが、投票率は約五六パーセントと、決して高いとは言えませんでした。しかも二十歳未満の投票率は約三八パーセント。注目されていたという割にはとても低いのではないかと感じました。自分の同級生の中にも選挙に行った人と、行っていない人がおり、選挙に対する意識は人それぞれなんだと感じました。自分が投票したところで何も変わらないと考える人は多いかと思います。しかし、今年六月に行われたイギリスのEU離脱を問う選挙では、賛成と反対の投票数が全体の約二パーセントほどの差であり、とても僅差でした。このことから分かるように、選挙というものはいつも大差で結果が出るものではなく、投票者一人ひとりの意識がとても大切になります。

現在、日本国内では投票率の低下がとても問題になっています。投票を義務化することも可能かもしれませんが、そうしてしまうと何も考えずに投票する人が多くなるのではないかと私は考えます。投票とは決して面倒なものではなく、ものの数分で終わります。私たちが住む日本の将来のため、これからも選挙の際には必ず投票に行き、自分だけでなく、周りの有権者にも投票することの大切さを伝えていきたいと思います。